



東京清掃労働組合退職者会機関紙

清友

No.164

2023年4月
(2023年3月31日発行)

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ5F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541

政権交替へジャンプ！

統一地方選勝利！ 政治を変えよう

4月は、4年に一度の統一地方選の年です。
★国政野党系候補の当選を！
自治体の首長と議員は、地域の政治を決めるだけでなく、地方公務員労働者の労働条件を左右します。OBとして、現役世代を応援する意味でも自治体選挙は重要です。
一方、地方統一選挙の結果は、度々その後の国政に影響を与えてきました。軍拡と原発回帰を推し進め、改憲に走ろうとしている岸田政権を引きずり下ろすためにも、国政野党系の首長や議員を1人でも多く当選させることが大事です。

5月の大きな行動

■日比谷メーデー

▽5月1日(月)

9時30分集合

▽日比谷野外音楽堂

集会後、鍛冶橋までデモ

■憲法集会

▽5月3日(水) 13時

▽有明防災公園

集会後、有明地区をデモ

5月1日に日比谷メーデー、3日に憲法集会が行われます。改憲・軍拡・原発回帰阻止を掲げ街頭アピールしましょう。

★日比谷メーデーと憲法集会に結集しましょう！



お花見
ウォーク満開のサクラも生憎の雨
小金井公園・江戸東京
たてもの園見物と昼飲み

3月28日、コロナで20年以降続けて断念した花見を4年ぶりに行うことができました。

★小金井公園は鬼門なのか？

3年連続中止の小金井公園は、退職者会にとってどうやら鬼門のようです。晴れるはずが朝から雨。これではシートを敷いてのお花見は無理。雨のせいもあってか参加者は11人と過去最少。意気が上



「江戸東京たてもの園」は、料だ」とたてもの園へ。「子供を連れてきたね」などと懐かしみつつ見学、クイズでミニポーチをゲット。★**終いふければ…**は武蔵小金井駅前で昼飲み。結局、飲めれば過程はどうでもいいよ、うで、みんなご機嫌。こういう花見もありですかね。

がらない。仕方がない、サクラはそこそこに昼飲み。小金井公園までも歩かずにバスで。本来の趣旨からほとんど外れていく。いいのかなあ。★**おお！たてもの園が無料！**小雨の中、小金井公園は空しくサクラが満開。ふと看板を見ると「江戸東京たてもの園開園30周年記念、27日と28日は入園料無料」、やった！「無料だ」とたてもの園へ。「子供を連れてきたね」などと懐かしみつつ見学、クイズでミニポーチをゲット。

今年前半の
主な行事

6月6日 春のフィールドワーク

6月16日・第15回定期総会

今年前半の主な行事は残すところ二つになりました。

「春のフィールドワーク」と「第15回定期総会」です。

小石川後楽園周遊とちよつと豪華、ホテルランチブツフェ

春のフィールドワークは、東京都戦没者墓苑と水戸黄門・光圀が造成した名園、小石川



後楽園をめぐるります。

小石川後楽園といえば、ウメとサクラにハナシヨウブ。6月初旬はハナシヨウブの時期。見学終了後のお楽しみタイムは、ちよつと豪華に「ホテル・ランチブツフェ」です。

●日時 6月6日（火）
●集合 10時 東京メトロ丸ノ内線「後楽園」4b出口
●参加費 2千円（小石川後楽園入場料含む）

第15回定期総会は
できれば懇親会も…

5月から、コロナの感染症位置付が変わります。清掃会館での飲食が解禁されれば、定期総会後の懇親会開催が可能になります。そうなることを願いつつ、第15回定期総会は、

▼日時 6月16日（金）

10時15分開会

▼場所 清掃会館ホール

▼参加費 千円（懇親会実施の場合）

▼出欠連絡 5月に連絡票送付

東京清掃第93回定期大会



多田委員長



西村副委員長



坂部副委員長



渡辺書記長



萩原書記次長

東京清掃第93回定期大会が、3月19日、連合会館で開催されました。来賓の参加を限定し、中央委員の出席も見合わせるというコロナ対策を施す形式でした。

■江森委員長は政権批判と大幅賃上げの闘い強調
江森委員長は、「ロシアのウクライナ侵攻は許せないがNATOの武器供与は悪戯に戦争を長引かせる、早期停戦の実現を。岸田政権は国会に諮らず安保三文書を閣議決定。許しがたい暴挙だ。軍事費大幅増で日本は戦争する国になる。コロナ対策は自治体任せ、子ども対策は具体性なし、このような政権は早期に退陣すべき。春闘で大手は一定の賃上げだが、中小が問題。まともな人事委勧告を求める。政令指定都市中最低レベルの特別区賃金を、日本一生計費が高い東京に相応しい水準へ引上げさせよう。さまざまな課題が山積している。それらに立ち向かうため、本部への結集をお願いしたい。」と訴えました。



「ロシアのウクライナ侵攻は許せないがNATOの武器供与は悪戯に戦争を長引かせる、早期停戦の実現を。岸田政権は国会に諮らず安保三文書を閣議決定。許しがたい暴挙だ。軍事費大幅増で日本は戦争する国になる。コロナ対策は自治体任せ、子ども対策は具体性なし、このような政権は早期に退陣すべき。春闘で大手は一定の賃上げだが、中小が問題。まともな人事委勧告を求める。政令指定都市中最低レベルの特別区賃金を、日本一生計費が高い東京に相応しい水準へ引上げさせよう。さまざまな課題が山積している。それらに立ち向かうため、本部への結集をお願いしたい。」と訴えました。

退任した江森委員長



来賓挨拶は、自治労働本部松村委員長、特区連籠谷書記長、全労協渡辺議長。

■今年も、青年層が積極的に発言し、大会議論をリード
多田書記長による一般経過報告、渡辺書記次長による会計報告を承認し、西村副委員長が運動方針を提案、8人の代議員が発言しました。主な内容は「青年層の活動に支援を」「若い層が支部執行部の中心になり、ベテラン層が非協力なので厳しい状況にある」「コロナ後の取組み強化を」「新採予定者から辞退が出た。原因は低賃金構造。大幅賃上げを勝ち取ろう」などでした。

東京清掃本部常任中執

- 委員長 多田修一郎(江戸川)
- 副委員長 西村 好勝(多摩川)
- 副委員長 坂部 貴之(練馬)
- 書記長 渡辺 歩(葛飾)
- 書記次長 萩原 崇氏(板橋)
- 常任中執 森田 裕二(港)
- 常任中執 泉田 和明(北)
- 常任中執 渡辺 一彦(文京)
- 常任中執 栗澤 紀和(杉並)
- 常任中執 高橋 正幸(蒲田)
- 常任中執 西大條 剛(中野)

だが、長期にわたる採用抑制により世代間の意識のずれが顕在化、職場で苦闘している状況も見受けられました。

■新体制で総団結し、引き続き社会的労働運動強化に期待
今大会で江森委員長が退任(自治労働本部副委員長就任)し、委員長に多田さん、書記長に渡辺さん、書記次長に萩原さんが就任しました。新しい常任は別記のとおりです。

内外ともに厳しい状況にかかっていますが、東京清掃には首都圏の労働運動の先頭に立って闘い抜くことが期待されています。退職者会は引き続き応援していきます。

注) 掲載した写真は東京清掃提供

2023 春の学習会

『自民党改憲草案』
徹底批判！

衆参両院で改憲勢力（自公・維新・国民等）が3分の2を超え、敵基地攻撃能力保有等「実質的改憲」が行われるなど、憲法9条改悪は戦後最大の危機を迎えようとしています。このような情勢下、3月11日に、『壊憲NO！96条改悪反対連絡会議』が行う「壊憲阻止のための講師（弁護士）派遣」による学習会を開催しました。講師の都合を踏まえ土曜日開催でしたが、15人参加しました。講師は元鉄建公団訴訟主任弁護士の加藤晋介さん、歯切れのいい元氣が出るお話を聞くことができました。「闘いはこれから」です。

『壊憲』構想の行き着く先と現在の情勢（『壊憲』構想の本質と行方）。自民党改憲案のグラウンデデザインは14年草案に示されている。特徴的なのは「個人」概念。人権尊重の基本は「個人」だが、自民党案は個人の権利を捨てさせるもの、「個人の権利」から「人の権利」へ。「個人」から「個」を取ることに大きな意味、「人並みのことを」と、多数者の決定への服従を強い、公の秩序を守らない者に自由はないと。

東京清掃の闘いの課題

学習会の前段として、東京清掃の課題について、西村副委員長から報告を受けました。

主な内容は「特別区の賃金水準は政令都市中最低レベル、職員応募者が激減し、採用辞退も続出している。生活費に見合う大幅賃上げを勝ち取りたい。清掃現業職は過去最多18区・一組で70名超の採用を獲得できたが、一方で清掃工場は委託化によ



東京清掃西村副委員長



講師の加藤晋介さん

「14年改憲草案」で特徴的なのは「個人概念」

学習会のテーマは「自民党

国民主権から国家主権へ

自民党改憲案は日本国憲法の柱「国民」主権を「国家」

主権に変えるとしている。和を貴ぶ家族（「個」の否定）、美しい国・日本を守る規律ある自由を押し出し、個々の人権を守るために国家があるという「立憲主義」を否定。

ビスマルク国家法人説がある。国家は会社と同じ法人の説。王も国民も構成員。明治憲法はビスマルク流を入れた。

「公共の福祉」から弱者の「人権制限」へ

「公共の福祉」とは、最大多数の最大幸福（ベンサム）、他人を害しない限り人権を制約できないという考え方、弱者保護のため強者を制限する。この「公共の福祉」を否定、「公益」「公の秩序」へ。弱者・少数者の人権が制限される。

「非軍事」平和主義から「軍事的」国際貢献

日本国憲法9条2項は「戦力不保持」と「交戦権否定」、9条1項は「不戦条約」で国際共通概念。9条2項が特異。憲法は国民を守る社会契約。個人を守る義務から、対外的には軍隊が必要と解される。

しかし、国民国家では徴兵制が生じ、庶民が戦争に動員され、兵器の飛躍的發展により近代戦は過酷になっている。「総力戦」になり、社会インフラ・市民社会が攻撃される。

軍隊は抽象的「国家」を守るが、国民は守らない。沖縄は市民の4人に1人殺された。

抑止力では戦争を防ぐことはできないから、日本は軍隊を放棄したが、自民党は正規の軍隊をつくり、軍需産業の育成強化で経済維持を図ろうとしている。学術会議弾圧は戦争態勢をつくるためだ。

自民党の改憲4課題

「緊急事態宣言」で人権を制約できる。ヒトラーはワイマール憲法下、緊急事態で憲法を破壊した。「緊急事態宣言で無法化と人権制限が可能になる。」

自民党は、自衛隊合憲化と緊急事態条項による一点突破を狙っている。その後に全面展開が待っている。

日本国憲法「押しつけ」の必然性と正当性

戦後の原点は、日本国憲法。明治憲法は後発国家型。天皇主権で国を形成し、帝国主義国家を目指した。後発国の急速な発展は国家資本主義型による。戦前の日本、ナチスドイツ、現在の中国など。

日本の国民は、日本国憲法により初めて人権が与えられた。GHQによる「押しつけ」

憲法で国民は変わった。革命的だったので国民は受入れた。GHQ民生局は本気で日本の民主化と社会改造をやるうとした。農地解放と財閥解体、労働組合の育成など。当時の労働組合組織率は52%だった。

解釈改憲に至る過程

「冷戦」激化で大きく事態は変化。朝鮮戦争により、50年に警察予備隊創設。日本を赤化させないことを最優先。

60年「安保と三池」闘争は、憲法正常化の最大決戦だった。高度成長と55年体制下で、解釈改憲が進められた。

73年オイルショックで、戦後体制が大きく変化。欧米はワークシェアリング、労働時間短縮へ舵を切ったが、日本は「過労死」の方向を選択。

85年プラザ合意で日本資本主義は変質。生産拠点の海外移転、社会党・総評潰しの国鉄分割民営化と国鉄闘争、労働者派遣法で首切り自由に。

改憲危機の原因は何か

89年〜91年、社会主義体制崩壊。アメリカから「国際貢献」

を求められ、海外へ。バブル崩壊と経済低迷が始まる。

中曽根構想による社会党・総評ブロックの解体に加え、94年小選挙区制で相対多数派が議席を独占できる構造になり、護憲勢力は死に体。

民主党政権では何とか勝てたが、東日本大震災と財政論で打ち出の小槌がなかったため、ダメになる。小選挙区中核の構造では野党は勝てない。

我々の課題〜どう闘うか

改憲派が国会の4分の3を占め、国民投票が焦点化。国民投票で多数派をとる以外にない。そのために何をするか。

岸田はウクライナ情勢と台湾危機を利用、GNP2%で世界3位の軍隊に、普通の国になることを宣言したに等しい。再軍備路線だ。

アメリカはアジア、台湾でアメリカ人の血を流すことはない。核戦争をやれば双方とも助からないから、核の共有、核抑止力はない。

自民党は独自パンフで学習会を組織するとしている。下からの改憲運動だ。維新は600

人の地方議員をつくるという。壊憲・保守合同にどう対抗するか。学習会を組織し、反戦論を広めるしかない。論点は、国防論と軍隊の本質の暴露がポイント。中国は14億人いる。そこドンパチやれるか。地政学的にみるべきで、軍事ではなく外交、抑止力ではなく知恵を絞るべきだ。



第4回会 第幹事

新デザイン行動旗案再検討、**再建15周年事業は不実施、**定期総会準備提案、**6月までの行事実施案検討**

3月11日に第4回幹事会・専門部会を開催し、①新デザイン行動旗の作成案、②再建15周年事業の取扱い、③定期総会準備、④6月までの行事実施計画案を検討しました。

行動旗新デザイン案

一昨年の定期総会（書面開催）で、「旅行等の行事では《清友会》、行動の旗印は《シニアユニオン》名を使う」ことを確認し、行動旗の新デザインを検討してきました。難航の末、ようやくデザイン案を提案しましたが、事前の検討会で「シニアユニオンは変！」という意見が出されたため、3月の幹事会では決定せず、再検討することにしました。

再建15周年事業は行わず

今年の4月で退職者会再建から15周年になります。金を

定期総会運営の考え方提案

6月16日に第15回定期総会を開催します。議案は①活動方針、②会計予算、③共済会員制度創設（規約改正）を予定しています。

総会運営としては、懇親会を行えるかどうかです。清掃会館での飲食が解禁になれば実施したいと考えています。

6月までの行事運営計画

6月6日に行う『春のワールドワーク（小石川後楽園周遊とホテルランチブツフェ）』の実施計画等を確認しました。みんなで集まりましょう。



主権者スルー改憲は民主主義国家の 根本原理「国民主権」を壊す

3月22日、四谷区民センターで、『東京平和運動センター』と『壊憲NO！96条改悪反対連絡会議』共催の『日本政府の「改憲・軍拡」を許さない3・22集会』が開かれました。

司会は、退職者会会員で元東京清掃委員長の東京平和運動センター事務局長桐田さん、両組織代表等の挨拶後、武蔵野美術大学教授で憲法研究者の志田陽子さんが『主権者スルー改憲が壊しつつあるもの』

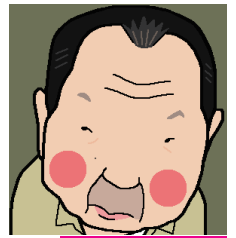
吾々が主権者だと主張しよう

をテーマの講演を行いました。自作の歌で憲法原理の比喩を紹介する講演は新鮮、美大の授業つてこういう感じ??。

「反撃能力と集団的自衛権が組み合わさると、相手国からは国際法違反の先制攻撃になる。抑止力を持つことは相手国から敵と認定されることを前提とした議論をすべき」「日本は戦争の反省から軍隊を持たないことを決めた。憲法の規範の変更は手続きが必要」「国防予算は本当に必要か、議論するための材料が提供されなければ、国民主権国家といえない」など、わかりやすい例を挙げて説明され、主権者とは何かをよく理解できる講演でした。



桐田さんが司会、講師の志田陽子さん



事件から57年、ようやく 袴田巖さんの再審開始決定 警察・検察の証拠捏造を高裁が認定

3月13日、東京高裁は『袴田事件』の再審決定に対する検察の即時抗告を棄却し再審開始を支持することを決定、20日に検察が特別抗告を断念したため、再審の実現が事実上確定しました。

過酷で違法な取調べで 袴田さんは犯人とされた

『袴田事件』は、66年6月に静岡県の旧清水市（現静岡市）の味噌製造会社専務宅で一家4名が残酷な方法で殺害された強盗殺人・放火事件です。元プロボクサーの袴田巖さんが不当逮捕、過酷な取り調べにより「自白」を強要されて犯人に仕立て上げられ、死刑判決が下されてしまいました。袴田さんは再審を請求、第二次請求で14年3月に静岡地裁が再審開始を決定し拘留停止決定も行い、袴田さんは47年7月ぶりに釈放されました。しかし、検察が即時抗告し東京高裁は再審請求を棄却。

弁護側の特別抗告で最高裁は「審理不十分」として差戻しを行ない、今回の東京高裁決定に繋がることになりました。

死刑判決の最重要証拠は 警察・検察の捏造だった

最終的争点は、死刑判決の最重要証拠である事件の1年後に現場の味噌タンクから発見された多量の赤い血液が付着した衣類でした。弁護側は「1年も味噌に漬かっていれば血液は黒く変色する」ことを科学的に明らかにし、検察側は有効な反論をできませんでした。死刑判決の決手になった証拠は捏造だったのです。

死刑囚として死の恐怖に長い間さらされ拘禁症の状態にある袴田さんは、ようやく春を迎えることになりました。

次は狭山事件。石川さんの再審を勝ち取りましょう。



再審決定を喜ぶ
姉の秀子さん
(押田さん提供)

清掃・人権交流会フィールドワーク 差別に基づく虐殺、福田村事件に学ぶ

百年前の23年9月に発生した関東大震災は、大災害を引き起こしましたが、同時に忘れてはならないのは、朝鮮人や中国人、社会運動家などが大虐殺されたことです。

千葉県福田村（現・野田市）でも大震災の5日後、香川県

の被差別部落の葉売り行商団一行が自警団に襲われ9名が虐殺されました。この事件は、

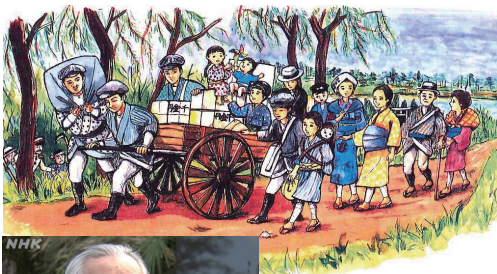
民族差別や部落差別、よそ者差別と職業差別等が複雑に

絡む民衆の差別意識が背景にあったと指摘されています。

今回の清掃・人権交流会フィールドワークは、この福田村事件の現場を訪ねます。『福田村事件追悼慰霊碑』を建てた市川正廣さん（特別区職員研修所講師）に講師を依頼し、事件現場などをまわり、事件の背景、野田市周辺の部落差別との闘いを学びます。さらに、人権の取り組みを行なっているキッコーマンの工場見学も行ないます。現在の差別問題との共通性を考える機会になると思います。



福田村事件追悼慰霊碑



市川正廣さん

フィールドワーク案内

- 日 時 5月28日（日）
8：20、清掃会館集合・出発
18：00、清掃会館到着・解散
(貸切大型バス利用)
- 場 所 福田公民館（野田市）
事件現地など
- 参加人数 約40名（先着順）
- 参加費 2,000円
(バス代・資料代・昼食弁当代込み)

注) この頁の二つの記事は、押田五郎さんが執筆した関連文書をベースにしています。

3・21さようなら原発全国集会 大江健三郎さんの遺志を継ぎ、 脱原発社会を実現させよう！

福島第一原発事故から12年。3月21日、3年ぶりとなる『さようなら原発全国集会』が代々木公園で開催されました。

大江さんの思いを引継ぐ

集会の冒頭、3月3日に亡くなった集会呼びかけ人の大江健三郎さんをはじめ脱原発

運動に関わってこられた多くの故人や、福島第一原発事故関連で亡くなった方々の冥福を祈り、黙祷を捧げました。

集会発言でも、呼びかけ人の鎌田慧さんや落合恵子さんは文学だけでなく社会運動に多大な貢献をした大江健三郎さんを悼み、「大江さんの思い

をしつかり継いでいきたい」と発言しました。

福島をなかつたことにする

主催者挨拶で澤地久枝さんは「日本はどんな悪い方向へ向っているが、今日のように集会を一つ一つ成功させ、『原発は許さない』と声をあげていこう」と訴えました。

福島現地からは「国は責任を取らず、フクシマをなかつたことのようにし、汚染水を海へ捨てようとしている。福島県民の7割が海洋投棄に反対している」「原発事故が起きてすべての人を避難させられることは困難だ」、原発事故により甲状腺がん罹患者が若い女性は「多くの罹患者が声を上げられずにいる。国の責任は重大だ」と指摘、政府の原発帰還方針を批判しました。

原発回帰を許さない！

集会後、原宿コースと渋谷コースに分れてデモ行進（私たちは原宿）し、「原発回帰を許さない」「原発再稼働反対」などを訴えました。退職者会の参加者は14人でした。

大軍拡・増税NO！

大軍拡・軍事費大幅増の予算が国会で審議される中、3月の総がかり19日行動が国会議員会館前で行われました。

主催者は、「岸田政権は自衛隊基地にミサイルを配備、敵基地攻撃能力を保有し危機をおり、戦争する国にしようとしている」と指摘しました。

市民からの発言で『移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）』は、「強制送還をより容易にする入管法改定案が再度国会に上程されようとしている。非人道的な法案を廃案へ」と訴えました。

